



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 33

第11回 ISCGM 会合

カレン・クライン

ISCGM 事務局次長



本会議

第11回地球地図国際運営委員会は、2004年2月7日、インド、バンガロールにおいてGSDI7会議に引き続き開催されました。本会合には、テイラー委員長（カナダ・カールトン大学教授）はじめ世界11カ国13名の委員と、13の国際組織の代表、オブザーバなど、合計40名が参加しました。本会合は非常に盛会のもとに行われ、いくつかの課題が報告・審議されました。また、エジプト、カイロにおいてGSDI8会議やFIGワーキング・ウィーク会合とあわせて開催を予定する次回の会合でさらに詳しく討議されることになった課題もありました。

取り上げられた主な課題は、地球地図プロジェクトに現在未参加の国々の参加を奨励することです。この点でISCGM委員長のテイラー教授は、地域機関やリエゾン機関の代表者に、当該機関の構成員に参加を呼びかけ、地球地図を支援するよう要請しました。地球地図の促進の支援は満場一致で合意されました。

主な事項の2点目は、地球地図第2版の仕様でした。これに関して、新しい仕様の整備にあたり取り上げるべき何点かの課題を検討するために、その

週に臨時会合が行われました。結論の一つは整備されるどのような仕様もISOに準拠すべきであるということです。また、仕様を扱うワーキング・グループ2は、ラスターデータレイヤとベクトルデータレイヤの一貫性を保つために、ラスターデータを扱うワーキング・グループ4と緊密に連絡を取り作業を行うこととなります。

主な課題の3点目は、地球地図データへのアクセスを提供するウェブ・ポータルに関するものでした。参加者は満場一致で、ウェブ・ポータルによる地球地図データへのアクセスの整備を進めることに賛成しました。これによって地球地図データのアクセスが容易になり、データ利用が促進されます。

その他、取り上げられた課題は、千葉大学の建石先生が部会長を務める第4ワーキング・グループの進捗状況でした。その中で地球地図第2版のラスターデータレイヤについて、分類スキーマ（凡例）を微修正するが土地被覆は維持する、植生レイヤは樹冠率とするという提案がなされました。

第3ワーキング・グループは、商業利用の定義を課題とし、ISCGM次回会合で報告書を提出するよう求められました。

また、本会合中に、ISCGMは、地理情報関係機関を探す方々への「ワンストップ・ショップ」である地理空間情報社会合同委員会の会員となったとの報告がありました。

次回の第12回ISCGM会合は、2005年4月にエジプト・カイロ、もしくは2005年7月にスペイン・アコルーニャで開催することとなりました。

第11回 ISCGM 決議（仮訳）

インド、バンガロール

2004年2月7日

1. 地球地図データ公開および参加
 - a. ISCGM は地球地図データ整備のための参加機関の継続的な努力や事務局の支援に感謝する。
 - b. ISCGM は、データの利用を促進するために、地球地図仕様を完全には満たさない地球地図データやすべてのデータ・レイヤを持つわけではない地球地図データを適切なメタデータを伴い公開するために事務局が可能な限り作業を速めるよう奨励する。
 - c. 第10回 ISCGM 会合以降、地球地図第1版の整備は著しく進展したが、整備が未完了の参加国は整備を完了するよう強く奨励する。
 - d. 第10回 ISCGM 会合以降、地球地図の参加国数は着実に増加しているが、未参加国の参加を奨励するためにさらなる努力が必要である。これについては、委員、顧問、リエゾン機関や他の関連機関から働きかけるよう奨励する。
2. 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD)
 - a. ISCGM は、WSSD のタイプ II パートナーシップ / イニシアティブの実施機関として、地球地図プロジェクトのための予算獲得、適切な機関とのパートナーシップの確立、参加の奨励、および寄与にこの地位を利用するよう決議する。
 - b. WSSD の実施機関として与えられた機会が継続していることを認識し、ISCGM は持続可能な開発委員会 (CSD) および事務局が認める他の適切な活動などの WSSD フォロアアップ活動に継続的に参加することを決議する。
3. 地球地図ポータル整備
 - a. ISCGM は、地球地図データの入手や利用を促進するために、地球地図データをウェブマッピング技術をとおして利用可能にすることを決議する。
 - b. ISCGM は、ESRI の既存のグラント・プログラムの延長としてポータルを創設しウェブマッピングの実施を支援する申し出に感謝する。
4. 仕様
 - a. ISCGM は、インドを部会長とする第2ワーキング・グループの今日までの作業に感謝し、地球地図仕様の改定に関する審議を継続するよう WG2 に引き続き奨励する。ISCGM は、本会合で取り上げられた問題を今後の審議に含めるよう WG2 に奨励する。
 - b. また、ISCGM は、ラスタデータ整備を扱う WG4 が WG2 で確定される地球地図仕様の全体の枠組みのなかでラスタデータ仕様の整備を行うよう決議する。
5. 全球のラスタデータ整備

ISCGM は、千葉大学の建石隆太郎先生を部会長とする WG4 が今日までに完了した作業に感謝し、ラスタデータ整備に関する WG4 の作業を引き続き支援する。
6. 人材育成
 - a. 地球地図整備を促進するために人材育成が著しく重要であることを認識し、ISCGM は日本国政府の行う地球地図パートナーシップ・プログラムを含め、開発のための資源地図地域センター (RCMRD)、国際協力機構 (JICA)、ケニア測量局およびケニア測量地図学院

などのケニア、ナイロビにおける地球地図セミナーの主催者および支援者の貢献に感謝する。また、ISCGMは、ESRIとRCMRDがナイロビにおいて地球地図/全地球空間データ基盤グラント・プログラムで研修を実施したことに感謝する。

- b. ISCGMは、ESRIのJack Dangermond氏によるJohn E. "Jack" Estes教授を記念して創設された地球地図/GSDIグラントの実施に引き続き感謝する。
- c. ISCGMは、適切なパートナーとともに引き続き人材育成活動を行う。

7. JICAの支援

ISCGMは、1994年以来、毎年日本で行われているJICA環境地図集団研修コースの役割を認める。それについて、ISCGMは日本国政府およびJICAが地球地図にさらに貢献できるよう本コースへの資金拠出の継続を決定したことに心から感謝する。

8. 国連地理データベースとの協力

ISCGMは、縮尺100万分の1の国連地理データベースを地球地図に未参加の国や地域の地図の代替として利用する可能性について事務局が検討するよう奨励する。

9. パートナーシップ

- a. ISCGMは、関係機関やイニシアティブとのパートナーシップの促進を歓迎する。
- b. ISCGMは、統合地球観測戦略パートナーシップ(IGOS-P)との関係強化の機会を模索する事務局や日本国政府の活動を認め、ISCGM委員は自国の担当部署と連絡をとるよう奨励する。

10. 地球地図の促進

- a. ISCGMは、地球地図の宣伝のためにISCGM委員やISCGM事務局がISCGMを代表し、東京の国際連合大学におい

てポスター展示やワークショップを行うなど、多くの国際会議において地球地図を宣伝する努力に心から感謝する。

- b. また、ISCGMは機会を捉えて地球地図を継続的に促進するよう奨励する。

11. 地球観測サミット

2003年6月のG8サミットにおいて提唱された地球観測のための実施計画の整備を踏まえ、また、地球観測データや関連活動の価値を認め、ISCGMは、地球観測グループの国家代表に、特に2004年4月に開催される第2回サミットの国家代表に対して、地球観測データ収集と配布のための実施のメカニズムとしての地球地図の価値について、連絡をとるよう奨励する。

12. リモートセンシング・データの利用における協力

a. ALOS/JAXA

ISCGMは、リモートセンシング・データ、特にALOS衛星のデータを地球地図のために使用する要望を改めて表明し、この成果を得るためにGSIと事務局がJAXA(旧NASDA)と協議することを強く支援する。

b. ISRO/IRS

ISCGMはIRSのデータの入手についてISROと意見交換を開始する。

13. 会合予定

ISCGMは、第12回会合をエジプト、カイロにおいて、2005年4月16日～21日に開催されるFIG/GSDI会議とあわせて開催することを決議する。カイロでの開催が不可能な場合には、第2候補は、スペイン、ラ・コルーニャにおけるICC会議とあわせての開催である。

14. 謝辞

ISCGMは、インド測量局の本会合のための支援に心から感謝する。

第7回 GSDI(全地球空間データ基盤)会議の概要について

丸山 弘通

ISCGM 事務局長



会場：ホテルグランドアショク、バンガロール

2月2～6日、インド国バンガロール市において、第7回 GSDI 会議が 37 カ国から約 400 名の参加を得て、ISRO(インド宇宙研究機関)及び DST(インド科学技術省)の主催により開催されました。この GSDI 会議は、各国及び各地域の空間データ基盤をベースに地球規模の空間データ基盤を構築することを目的に 1996 年以來1～2 年毎に世界各地で開催されてきたものです。

今回の会議は、全体会議、4つの分科会（「空間データ基盤関連技術」、「法的小および政策的課題」、「空間データ基盤と持続可能な開発」、「ビジネス機会と可能性」）、ポスターセッションおよび企業展示から構成され、全体で 150 編以上の論文が発表されました。国土地理院からは、矢口参事官が全体会議の「画像、GIS および GPS」セッションにおいて、「IT 時代における国家測量地図作成機関の役割」と題し、国土地理院における基盤データ整備や GEONET による地殻変動監視、また、測量地図の普及啓発活動について紹介しました。丸山地理調査部長は、「空間データ基盤と持続可能な開発」分科会において「地球地図促進のための技術的課題」と題し、現在進められている地球地図仕様改定について発表しました。この他、地球地図関連では、3 編の論文が発表されました。

最終日には、「政府からの支援」、「NSDI のための能力開発」、「データアクセスや相互運用性に係る技術的課題」等、16 の決議が採択され、5 日間の会議が締めくくられました。次回の GSDI 会議は、2005 年 4 月にエジプト・カイロ市において、FIG（国際測量者連盟）と合同で開催することが決まりました。

また、本会議開始に先立ち 27 機関の参加を得て GSDI 連盟の初総会が開催され、役員選挙等が行われました。これにより、GSDI 会議は GSDI 連盟という基盤を得て新たなスタートを切ることとなりました。なお、PCGIAP(アジア太平洋空間データ基盤常置委員会)及び ISCGM は、投票権のないメンバーとして GSDI 連盟に参加することになりました。バンガロールは、インドにおける IT 産業の集積地として有名ですが、会場となったホテルでのインターネット環境はすこぶる貧弱（スピードが遅い）で企業展示会場の一角に設けられたインターネットカフェのパソコンは常にふさがっているという有様でした。ホテルの周辺も IT 都市らしい面影は全く感じられませんが、車で 30 分ぐらいのところには IT 企業の集積した場所がありました。世界にその名を轟かせている有名企業に混じってインドの IT 企業の堂々とした建物を見ていると、この国の将来が底抜けに明るいものに思えてきました。



本会議

第10回アジア太平洋 GIS 基盤常置委員会（PCGIAP）開催

下山 泰志

国土地理院 国際交流室長

アジア太平洋地域の各国が協力しつつ、空間データ基盤の整備、測地共同観測等を一層推進することを目標に、第10回PCGIAPが、平成16年1月30日から31日にかけて、インドのバンガロール市で開催されました。アジア太平洋地域その他から合計19ヵ国・約70名の参加があり、日本からは矢口参事官、下山国際交流室長が参加しました。

○ 活動開始から10周年

PCGIAPは、活動開始から10周年を迎えます。これまで、測地共同観測や共通空間データの試作など、精力的に活動が行われてきました。その結果、世界的にも一定の評価を得ることとなり、各方面から活動の一層の発展への期待が寄せられています。

○ 新事務局長の選出

国土地理院は、昨年、沖縄で開催された国連アジア太平洋地域地図会議において、事務局に再選されています。今回、全会一致で矢口参事官が新事務局長に選出されました。

○ 議事

GSDI会長、ISCGM会長等から主要国際機関の活動の紹介があった後、測地、空間データ基盤、地籍の3つのWGに分かれ、向こう3年間の取組みについて討議しました。

○ 決議 ～アジア太平洋地域の共通空間データ整備を推進～

今後の活動方針として、①アジア太平洋地域共通データ整備を推進するとともに、地球地図など他の取組みとの連携を促進すること、②クリアリングハウスの整備を急ぐこと、などが決議されました。また、後述のGSDI協会には、リエゾンメンバー等として活動していく旨の決議がなされました。国際機関との協力関係の構築は重要なテーマであり、連携して活動していくことが、有効な施策の立案・推進の観点から極めて重要です。

○ 理事会及び関連会議

ワークショップの様子

総会終了後、理事会が開催され、①次回の理事会を9月に中国のラサで開催すること、②共通空間データの整備の推進に向け理事国が協議を進めていくこと、などが合意されました。また、途上国の能力向上等について討議するワークショップが開催され、インド国内で行っているGIS研修の取組み等について紹介がありました。



本会議

地球地図講演会を開催

岩瀬 三夫

ISCGM 事務局

国土地理院は、去る2月12日に国際連合大学(国連大学)、地球地図国際運営委員会と共催で、「21世紀の地球環境を守るために」をテーマにして「地球地図講演会」を、同大学エリザベス・ローズ会議場において開催しました。

本講演会は、地球規模の環境問題解決等に貢献するために、地球陸域全体のデジタル地理情報データを国際協力で整備する「地球地図プロジェクト」について、多くの方々に関心を持って頂き、「地球地図」が広く利活用されることを目的にしたものです。

当日は約100名の聴講者が参加され、丸山弘通国土地理院地理調査部長から「地球地図の概要と整備状況」について、国際連合大学学術審議官のヘーラト・スリカーンタ博士から「地球地図の利活用」について、そして丸山国際法律特許事務所代表の丸山和也弁護士から「地球のための私の行動」について、計3本の講演が行われました。講演後、参加者から「地球地図の意義が理解された」「利活用法についてもっと知りたい」「今後のプロジ

ェクト推進に期待する」等々多くの意見が寄せられました。

また、併催行事として、同大学地球環境パートナーシッププラザにおいて1月15日より開催していました「地球地図パネル展示」も、2月14日に終了しました。この間多くの見学者が入場され、地球地図の意義や役割を知って頂く良い機会となりました。国土地理院は、地球地図プロジェクトの完成に向けた活動を推進すると共に、これからもプロジェクトを普及・啓発するための活動を行っていく予定です。



丸山国土地理院地理調査部長の発表

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2004年

- 5月22日～27日、ギリシャ、アテネ
FIG ワーキングウィーク 2004
”ザ・オリンピックスピリットインサーベイイング”
- 7月10日～12日、トルコ、イスタンブール
IC WG II / IV
第5回空間データベースの増分更新及びバージョンニングに関する
ICA/ISPRS/EuroGeographics
合同ワークショップ

- 7月12日～23日、トルコ、イスタンブール
第20回 ISPRS 会議
- 11月7日～10日、ドイツ、ベルリン
第19回国際 CODATA 会議

2005年

- 4月16日～21日、エジプト、カイロ
FIG ワーキングウィーク 2005 及び X X VIII 総会
- 7月9日～16日、スペイン、ラコルニャ
X X II ICA 国際地図学協会会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org